

製品名: インテグリン β 1 (15X9) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe12658**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:200
分子量	88kDa

抗原情報

遺伝子名	ITGB1
別名	Integrin β 1, CD29, FN1B, Fibronectin receptor beta subunit, ITB1, Integrin VLA-4 beta subunit, Integrin beta-1 precursor, integrin beta-1
遺伝子 ID	3688.0
SwissProt ID	P05556
免疫原	ヒトインテグリン β 1 の合成ペプチド

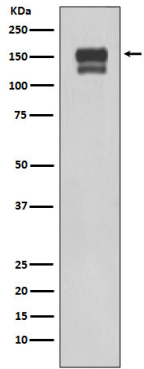
背景

インテグリンは、細胞接着と遊走、そして増殖と生存において極めて重要な役割を果たす、 α/β ヘテロ二量体細胞表面受容体です。インテグリンファミリーは、少なくとも 18 個の α サブユニットと 8 個の β サブユニットから構成され、それぞれ異なる組織分布と重複するリガンド特異性を持つ 24 種類のインテグリンが知られています。インテグリン α -1/ β -1、 α -2/ β -1、 α -10/ β -1、および α -11/ β -1 はコラーゲンの受容体です。インテグリン α -1/ β -1 と α -2/ β -2 は、コラーゲン中のプロリン水酸化配列 G-F-P-G-E-R を認識します。インテグリン α -2/ β -1、 α -3/ β -1、 α -4/ β -1、 α -5/ β -1、 α -8/ β -1、 α -10/ β -1、 α -11/ β -1、および α -V/ β -1 は、フィブロネクチンの受容体です。 α -4/ β -1 は、フィブロネクチンの選択的スプライシングを受けた CS-1 および CS-5 領域内の 1 つ以上のドメインを認識します。インテグリン α -5/ β -1 は、フィブリノーゲンの受容体です。インテグリン α -1/ β -1、 α -2/ β -1、 α -6/ β -1、および α -7/ β -1 は、ラミニンの受容体です。インテグリン α -6/ β -1 (ITGA6:ITGB1) は卵母細胞に存在し、精子と卵子の融合に関与しています (類似性による)。インテグリン α 4/ β 1 は VCAM1 の受容体です。VCAM1 の Q-I-D-S 配列を認識します。インテグリン α 9/ β 1 は VCAM1、サイトタクチン、オステオポンチンの受容体です。サイトタクチンの A-E-I-D-G-I-E-L 配列を認識します。インテグリン α 3/ β 1 はエピリグリン、トロンボスポンジン、CSPG4 の受容体です。 α 3/ β 1 は LGALS3 とともに、CSPG4 による内皮細胞遊走の刺激を媒介する可能性があります。インテグリン α V/ β 1 はビトロネクチンの受容体です。 β 1 インテグリンは、幅広いリガンドの R-G-D 配列を認識します。 α 7 インテグリンと結合すると、細胞接着とラミニンマトリックスの沈着を制御します。内皮細胞の運動性と血管新生の促進に関与しています。フィブロネクチン線維形成細胞を介したマトリックス構築プロセスによる骨芽細胞の圧縮と、石灰化骨結節の形成に関与する。KRT1 への結合を介して PKC などのキナーゼ活性の上方制御に関与している可能性がある。KRT1 および RACK1 と共に、SRC の活性化または不活性化のプラットフォームとして機能する。終期には、細胞質分裂の正常な完了に必要な接着機構の役割を果たす。インテグリン α -3/ β -1 は、コラーゲン依存的に浸潤突起の細胞膜において FAP (セプラゼ) のドッキング部位を提供し、接着、浸潤突起の形成、およびマトリックス分解プロセスに関与し、細胞浸潤を促進する可能性がある。ITGA4:ITGB1 はフラクタルカイン (CX3CL1) に結合し、CX3CR1 依存性フラクタルカインシグナル伝達においてその共受容体として機能する可能性がある (PubMed:23125415, PubMed:24789099)。ITGA4:ITGB1 および ITGA5:ITGB1 は、典型的なリガンド結合部位 (部位 1) とは異なる部位 (部位 2) を介して PLA2G2A に結合し、これによりインテグリンの構造変化が誘導され、部位 1 へのリガンド結合が促進される (PubMed:18635536, PubMed:25398877)。ITGA5:ITGB1 はフィブリリン-1 (FBN1) の受容体として機能し、R-G-D 依存性の FBN1 への細胞接着を媒介する (PubMed:12807887, PubMed:17158881)。ITGA5:ITGB1 は IL1B の受容体であり、その結合は IL1B シグナル伝達に必須です (PubMed:29030430)。ITGA5:ITGB3 は可溶性 CD40LG の受容体であり、CD40/CD40LG シグナル伝達に必須です (PubMed:31331973)。

研究分野

神経科学

画像データ



293T 細胞溶解物中のインテグリン β 1 発現を使用したウエスタン ブロット分析。